

農業共済新聞 千葉版 投稿

掲載号	4 月 4 週号	
筆者	所属	元千葉県農林総合研究センター(現千葉県長生農業事務所)
	職名及び氏名	研究員 清原 玲子
題名	ブルーベリーの減農薬・減化学肥料栽培のポイント	
備考	【表説明】 表1. 薬剤防除の例 表2. 堆肥及び肥料の施用例	

【本文】千葉県では、独自の減農薬・減化学肥料栽培の取組である「ちばエコ農業」推進事業を行っており、化学合成農薬と化学肥料の使用量を慣行の2分の1以下に削減して栽培されたものを「ちばエコ農産物」として認証しています。

ブルーベリー（ポット栽培以外）の場合、この認証基準は、化学合成農薬の使用成分回数(使用成分数×使用回数)が3回以下、化学肥料使用量（窒素成分量）が4.5kg/10a以下となっています。

表1は具体的な薬剤防除の例です。このような少ない農薬で十分な防除を行うためには、圃場衛生の徹底や防虫網の利用なども合わせて行うことが大切です。ブルーベリーは問題となる病害虫が少ない品目ですが、果実を食害するオウトウショウジョウバエは注意が必要です。園の内外を清潔に保つとともに、よく観察し、発生初期の防除を心がけてください。

また、ブルーベリーはpHが4.3～4.8の酸性土壌を好むとともに浅根性のため、湿害や乾燥害に弱く、新植では土壌改良が不可欠です。土壌改良資材には、ピートモス、樹皮堆肥、もみがら等の植物由来の資材が適しています。家畜ふん堆肥は塩類集積やpH上昇の懸念があるため適しません。もみがらは土壌改良効果に加え、株元にマルチング処理することで土壌の乾燥防止と夏の地温上昇を抑制する効果があるので、毎年500kg/10a程度を施用します。

施肥については表2に具体例を示しました。前述のように好適土壌が特異的であるため、ブルーベリーはマグネシウム等の要素欠乏を起こすことが良くあります。定期的に土壌診断を行い、適正な施肥を行いましょう。

表1 ブルーベリーの「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	生育段階	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病害虫
2月下旬	休眠期	※ マシン油乳剤95	14 倍	カイガラムシ類
4月中下旬	開花期	(ストロビードライフロアブル)	3,000 倍	灰色かび病、斑点病
5月下旬		※ デルフィン顆粒水和剤	1,000 倍	イラガ類、ケムシ類
6月中下旬	収穫期	(アディオフロアブル)	2,000 倍	オウトウショウジョウバエ
7月下旬	収穫期	(ダイアジノン粒剤5)	6 kg	コガネムシ類幼虫

※印は、「化学合成農薬に含まない農薬」

()は発生状況により散布

表2 堆肥及び肥料の施用例

区分	肥料	現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
			窒素	りん酸	加里
堆肥	もみがら	500			
基肥	野菜化成480(ジシアン480)	15	2.1 (2.1)	1.2	1.5
	なたね油粕	48	2.4 (0)	1.0	0.5
	ようりん	12		2.4	
総施用量			4.5 (2.1)	4.6	2.0

もみがらは株元マルチングに使用

()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来窒素成分量